

— 令和6年度卒業式 式辞 —

厳しい冬の寒さも和らぎ、木々の芽にも、確かな春の息吹が感じられる今日、この佳き日に、ご来賓の方々、並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、兵庫県立芦屋国際中等教育学校第17回卒業式を挙げていただけますことは、卒業生はもとより、在校生、職員にとりましても、大きな喜びでございます。

本日、ご臨席を賜りました皆様方には、平素より、本校教育活動に深いご理解と温かいご支援をいただき、さらには、巣立ちゆく卒業生の門出に華を添えていただきましたこと、心よりお礼申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与しました70名の皆さん、卒業おめでとうでございます。本校の教育課程を修了し、めでたくこの日を迎えることができたことは、一人一人が、たゆまぬ努力を積み重ねてきた結果であります。その努力に、心から賛辞を送ります。

本校での6年間、いかがでしたか。受験の日のこと、合格発表の日のこと、初めて制服に袖を通した日のこと、入学式、そして、日々の授業、日本語の勉強、ホームルーム活動、生徒会活動、部活動、地域貢献活動、校外学習、文化祭、体育大会、スポーツ大会、修学旅行中止のショック、その分まで充実させた研修旅行・・・これら数多くの活動を、深いご縁で結ばれた友達、先生とともに、30を超える国と地域にルーツを持つ、多文化、多言語の環境下で実践してこられました。

まさに今、変動し、不確実で、複雑、曖昧な、先行きが見通せない「VUCA」の時代に求められる、柔軟かつタフな「総合的人間力」獲得に、国内でほとんど類を見ない、貴重な教育環境が整った芦国で取り組まれてこられたというわけです。

皆さんが在学された6年の間、国内外においても大きな出来事がありました。「平成」が終わり「令和」の時代がスタート、消費税率が8%から10%へ、新型コロナウイルスの感染拡大、1年遅れの開催となった東京オリンピック・パラリンピック、ロシアがウクライナへ軍事侵攻、安倍元首相銃撃事件、世界の総人口が80億人を突破し、インドが中国に代わって最も人口の多い国に、イスラエルとイスラム組織ハマスの戦闘、そしてようやく停戦の道筋が見え隠れ・・・

スポーツ界では、野球の大谷翔平選手が大リーグ史上初の、シーズン50本塁打、50盗塁、「50-50」達成を含む大活躍、神戸を愛するイチロー選手が、日本そしてアメリカで殿堂入り、サッカーのワールドカップカタール大会での「三苦の1mm」、兵庫県選手も、フィギュアスケートの坂本花織選手、柔道の阿部一二三・妹、詩選手、車椅子テニスの上地結衣選手、水泳飛び込みの玉井陸斗選手などが大活躍されました。

ただ、毎年のように自然災害にも見舞われました。記憶に新しい、昨年元

日の「能登半島地震」に至っては、9月の「能登半島豪雨」が追い打ちをかけ、まだまだその傷跡が生々しく残っている状況です。そして、今年1月17日、阪神淡路大震災から30年が経過。

これらさまざまな出来事に触れながらの6年間、時には心を揺さぶられ、大きな勇気と感動をもらったり、また時には「命」の大切さ、尊さを確認されたことだと思えます。そして、自らの人生の将来像を模索する中、少しずつ、「人生の目的」、ひいては「人が生きる意味」とは何なのかということについても考えるようになってこられたのではないのでしょうか。

今日は、皆さんへの私からの最後のメッセージ、特にお伝えしたいことを3点お話しさせていただきます。

最初にお伝えしたいことは…やはり「命」、そして「親孝行」について…

今から約138億年前の「ビッグバン」による「宇宙」の誕生、約46億年前に、この「地球」が誕生、その地球上に「生命」が誕生したのは、約38億年前、深い海での単細胞微生物が最初であったと考えられています。

そこから途方もない時間が経過した、今からおよそ600万年～700万年前、ようやく、「人類」がアフリカで誕生し、その後、いくつもの種に枝分かれし、誕生と絶滅を繰り返しながら進化してきました。わかっているだけでも、およそ20種もの「人類」が地球上に暮らし、時には複数の人類種がすみわけて共存、あるいは熾烈（しれつ）な生存競争を繰り返していたと考えられています。

そして、その進化のバトンを受け継ぐ、最終ランナーとして登場したのが、私たち「ホモ・サピエンス」…ラテン語で、「賢い人間」という意味をもちます。

やがて、ほかの「人類」…「ネアンデルタール人」として知られる「ホモ・ネアンデルターレンシス」や「北京原人」として知られる「ホモ・エレクトゥス」など、全て滅び、「ホモ・サピエンス」は地球上で唯一の「人類」として生き残ったわけです…この壮大な時間の流れの中で、幾世代にもわたり、「命」の炎が一度も途切れることなく連綿と続き、皆さんは、十数年前に、ご両親からこの世に生を受けられました。まさに奇跡…皆さんの身体の中には、幾百万、幾千万という、ご先祖の連綿たる「命」の炎が燃えているのです。

また、皆さん、今朝は何を食べられましたか？昨夜は何を食べられましたか？…かわいい牛の「命」を、豚の「命」を、鶏の「命」を、元気に泳ぐ魚の「命」を、貝の「命」を、野菜もすくすく育ち、確かな「命」を持っています。数えきれない数の「命」を、まさに、了解なく一方的に“いただき”、私たちは、今、ここに、自らの奇跡の「命」を維持することができて

いるのです。私たちの「命」の中には、無数の動植物の、尊い「命」が内在し、そこで生き続けているのです。

皆さんの、身体の中で燃える、幾千万もの、ご先祖の連綿たる「命」と、動植物からいただき続けている数え切れない数の「命」への「感謝」を思えば、軽々に、「私なんかいない方がいい」「生きていきたくない」など、言えるでしょうか。すでに私たちの「命」は、自分だけに属するものではなく、関わりを持つすべてのものに属するものなのです。全力で、「感謝」の心で、天寿を全うし、充実の一生を送ることこそ、受け継ぎ、いただいた尊い「命」に報いる、唯一の道ではないでしょうか。

そして、この世のステージに立たせてくれたご両親、保護者の方に、孝行、恩返しできていない内に、ご両親、保護者を失うことは“人生最大の後悔”となります。皆さん、今日は、大きな親孝行、家族孝行をしています。孝行を重ねてください。「孝行は百孝の本（もと）」、すべての善なる行いの基本であります。

ただ、皆さんの中には、既に、大切な身内を亡くされている人もおられることでしょう。お墓参りをしてください。手を合わせ、その方のことを思い出し語りかけてください。

科学技術が証明できることのみが信頼され、「唯物論的思想」が優位に立つ現代において、仏教が「極楽浄土」、キリスト教が「天国」、イスラム教が「ジャンナ」と呼ぶ世界、そして、肉体が減びても、「意識体」は、「魂」「エネルギー体」として残り、私たちと「量子レベル」で繋がっているといった考え方に、2020年に「ノーベル物理学賞」を受賞した英国の理論物理学者で、「アインシュタイン」以来の天才と言われる「ロジャー・ペンローズ博士」が、「量子物理学」の分野で「量子脳理論」を提唱し、科学的に迫っており、私もワクワクしています。

どうか皆さん、今日、本校を立派に卒業されたことも、亡くなられた大切な方へ、是非、手を合わせてご報告してください。必ず伝わり喜んでくださることでしょう。

もちろん、私たちの大切な友、5年次で亡くなられた〇〇〇〇さんとも、私たちは確実に、そして永遠に繋がっているのです。

次にお伝えしたいこと…「一番大切なこと」、そして「試練」を越え「本物」に向かって…

皆さん、私たちが生きていく中で、「一番大切なこと」、言い換えれば、「最高の価値を置くべきこと」は一体何でしょうか。これがぼんやりしていても、時にどの方向へ歩いていけばよいのか、わからなくなることもあるでしょう。

一番大切・最高の価値…さて、進学する大学の名前、「学歴」でしょう

か、その後の「職業」でしょうか、そこでの「役職」でしょうか、「年収」でしょうか、「財産」でしょうか、はたまた、ビジュアル、「外見」でしょうか…

「一番大切、最高の価値を置くべきこと」…これだけは間違っただけではありません…それは、“人として” どうであるのか、「人格」「人間性」「人物」「人柄」「人となり」…ここが“本（もと）”であり、学歴や職業、役職、年収、財産、外見などなどは、“末（まつ）”なのであります。この“本末”が転倒したならば、人間社会は、崩壊の道をたどる他ないのです。

この6年間だけでも、私たちは、世の中の多くの、立場ある人、また世界に名だたる大企業の「不正」をニュースで見してきました。その立場の持つ大きな責任、その立場への周囲の大きな期待に、「人格」「人物」が追いついていないケースを多く知らされました。

皆さん、全ては、その人が、“人として” どうであるのか、ということなのです。

スマートフォンは、誹謗中傷を送りつける、デマを拡散するために開発されたものではありません。匠が作り上げる見事な包丁は、人を傷つけるためのものではありません。「アルフレッド・ノーベル」の遺言に基づいて創設された世界最高権威のノーベル賞、彼が発明したダイナマイトは、人を殺傷するためのものではありません。ロケットは、核弾頭を搭載するためのものではありません…人は、これまでも、これからも、素晴らしく新しいテクノロジーを次々に生み出すことでしょう。「AI：人工知能」の進歩がもたらす世界は、我々の創造をはるかに越えることでしょう…ここで、絶対的に求められるのが、それを扱う人間自身が、「人として」どこまで練り上げられているのか、「人格」「人間性」「人物」はいかなるレベルであるのか、ということでもあります。

どれだけ「徳」を積み、人の「喜び」、「怒り」、「哀しみ」、「楽しみ」、「苦しみ」を知り、他の人に“思いやりの心”を持って接することができ、また「感謝」の気持ちを抱ける人なのか、そして、磨き上げた自らの軸、揺るがぬ物差しで、清濁入り交じるこの世の中で遭遇するさまざまな出来事、行い、発言を、「“人として”正しいのか、正しくないのか」を計り見抜き、「正しい」と判断したことを、勇気を持って貫き行動に移せるのか…

「徳」を積む、「人格」を向上させていく…容易ではありません。しかし、ここが人生、人間道の醍醐味でもあります。自らの「魂」を磨き、「心」を高めようとしたとき、必ずや様々な苦勞、ストレスと出会うこととなります。ここが分かれ道です…苦勞、ストレスを、自らの“磨き砂”、絶好のチャンスと捉える回路を備えておいてください。そして、何とか突破し、かっこ良くなくていいのです、何とか突破し、前進してください。苦勞、ストレスを、最高の栄養分として取り込んでください。

汗もかかず、足も運ばず、資料を読み込むこともなく、スマホでググリ瞬時に入手した情報は、知識、見識に深まることなく瞬時に失われるでしょう。心に汗をかき、積み重ねた苦勞こそが、皆さんの血となり肉となり、確かな「人格」を形成し、多くの人の信頼を得ることにつながるのです。

世の中で、「どのような人が信頼できるのか？」という問いの、最も正確な答は、「苦勞を重ねてきた人」ということなのであります。「若い時の苦勞は買ってでもせよ」との、古くからの教えは、人類不変の真理であります。

かく言う私自身もまだまだ人生半ば、日本の経済発展の土台を創った渋沢栄一、昨年、20年ぶりにデザインが新しくなったお札の、一万円札の顔となった彼の名言・・・「四十、五十は湊（はな）垂れ小僧、六十、七十は働き盛り、九十になって迎えが来たら、百まで待てと追い返せ」・・・四十歳、五十歳は、まだまだ鼻水を垂らしているような子どものようなもの、六十歳、七十歳は、最もバリバリ仕事に打ち込め成果も出せる年代、九十歳になって、あの世、向こうの世界から、そろそろこちらへ来いとお迎えがきたなら、百歳まで待っておけと、迎えの者を追い返せ、という、このことばからすれば、私もようやく「働き盛り」の入り口、まだまだ修行中の身ではありますが、少しだけ、私が19歳の時の経験、振り返ってみれば、私自身の人格形成に大きく影響を与えた経験をお話しさせていただきます。

19歳、それは、大学1年生の1年間・・・東京の体育大学に進学した私は、一つの運動部に入部し、7つの運動部が同居する、男子のみ600人での生活、寮での集団生活をスタートさせました。

私が所属した部は、この大学の中では創部10年あまりと若く発展途上であったため、大学チャンピオンやオリンピック選手を輩出する他の部に、1日も早く追いつこうと、毎朝5時50分から朝練、放課後の練習、夕食後のナイター練習と、異常な練習量と厳しさでした。しかしそこは体育大学・・・私も想定内。寮生活は全て部単位、同じ部の先輩後輩、1年生から4年生の4人部屋・・・あいさつ、掃除、髪型、言葉遣い、先輩のマッサージに衣類の洗濯、身の回りの世話などなど、全て細かく厳格に、部独自のルールが決められての集団生活・・・私も初めての集団生活でしたが、ここまでは、まだ想定内。ここからです・・・練習で声が出ていなかった、寮生活で「ミス」があった、また先輩に対し粗相があった・・・理由は、そのときどきさまざまでした・・・そんな時、平均すると、週に1回から2回、「集合」と呼ばれることが行われていました。

毎日、夜の9時30分に廊下で整列しての点呼が行われ、点呼の後には、一つの部屋に1年生と2年生が全員集まりミーティングが行われていました。「集合」とは、このミーティングの中で、1年生に「ミス」のあった日に行われていたことなのですが・・・2年生が、「それではミーティングを始めます」・・・1年生が、「お願いします」と、その直後に、2年生の厳しい口調

で、「座れ！」・・・1年生は、「失礼します！」と、1年生全員が正座し、両腕を背中て組み、目を閉じます・・・ここで部屋の鍵が閉められ、天井の蛍光灯が消され、4つの机のライトのみが点けられます。ここから、およそ60分～90分間、2年生からの指導が始まります・・・厳しく激しいことは、そして、顔面への平手打ち・・・一人が殴られたら、殴られた者が、即、「ありがとうございました！」、その直後に、1年生全員で「ありがとうございました！」・・・60分～90分の正座の間に、殴られるのは、一人1発～3発が平均でしたが、私は一晩に24発殴られた夜もありました。1年生の間に、茨城県の同級生は鼓膜が破れ、福島県の同級生は鼻の骨が曲がり、東京都の同級生は恐怖のあまり、殴られる前後の記憶を失い・・・などなど、色々なことが起こりました・・・毎日毎日毎日毎日、一日がとてつもなく長く辛く、プライベートもプライベートも一切ない、体と心の限界を越えた、自らの「生命力」が試される日々でした。

当時、ここでの生活は、端的に、今では差別用語とされる言葉で表現されており、1年生「ゴミ」、2年生「奴隷」、3年生「人間」、4年生「神」・・・私は「ゴミ」から「神」までの4年間を、この寮で過ごしました。

1年生「ゴミ」と2年生「奴隷」の時代、多くの同級生が部を辞め寮を去っていきました。私の部で4年間生き残った同級生は、私を含め7名。彼らとの関係は、まさに戦友、私の生涯の宝であり、今でも毎年集まっては昔話に花を咲かせています。

私は、大学卒業後、教育界に身を置き、今年で40年、学校や県教育委員会など、16箇所の職場に勤める中、学校では、私の頭めがけてパイプ椅子を振り下ろしてきた生徒がいたり、県庁では、夜中の零時をたびたび職場で迎えるなど、様々な難局とも遭遇してきましたが、今日まで、この大学時代の寮生活の1年生の時代より辛いことには、未だ、出合っておりません。私には、高校卒業直後に、自らを磨く最大の“研磨剤”、“磨き砂”となる出来事が待ち受けていたというわけです。

皆さん、今では、私が経験してきたようなことが行われているところは、探しても一切ないでしょう。あれば大問題で、連日、マスコミで報道されることでしょう。私の経験は、あまりに特殊なこと・・・昭和の時代においても、ほんの一部の限られた組織でのみ行われていたことです。皆さんが、このような経験をされることは決してありません。また、する必要もありません。

ただ、お伝えしたいことは、人生を歩む道中、「ここが勝負！」「ここは逃げられない」という、重圧、プレッシャーにさらされ、自身の力を厳しく試される苦難の場面が必ず訪れます。その時、かっこ良く突破する必要はありません。尊敬するご両親の背中を見ながら、また、先人の残した深い言葉をかみしめながら、時には仲間と愚痴を言いながらも、前、前を見据え、何

とか突破してほしいのです。自らの人生を決して否定的に見るのではなく肯定的に捉え、「良薬、口に苦し」、逆境、ストレスを、栄養・エネルギーに変える高性能な変換器を体内に備え、少々の暴風雨であっても飛ばされない『魂』を磨き、『心』を高め、獲得した力で、世のため人のために役立つ人となる、「人生の目的」に迫って行ってほしいと強く願っています。

人生を歩む中、自らを高めるチャンス、「幸運・ラッキー」は、しばしば「不運・アンラッキー」な姿をして現れるということを知っててください。

奇跡的にも、ご両親から人類の一員としていただいた「命」、本気で生きる“覚悟”を決め、大自然を含む、人知を超えた偉大な力への畏敬の念を決して忘れず、謙虚な心で「徳」香る「本物」の人物、“徳人”に向かい、確かな歩みを続けてください。

強く、そして優しく生きたなら、必ずやあなたの周囲に人が集い、心豊かで幸多き人生が約束されるのです。

最後にお伝えしたいこと…「宇宙全体の法則」、「真の幸せ」、そして皆さんの「人生の使命：ライフミッション」について

2025年、令和の時代が進む今もなお、世界を見渡すと、宗教や文化、民族の違いなどを理由に、憎しみと報復の連鎖、戦争、紛争が続いています。

幼く、罪無き子どもを含む、悲しみで泣き叫ぶ多くの人の姿を、ニュース映像を通して目にし、皆さん、どのような気持ちになりましたか？

数え切れないほど多くの、最も尊い、人の「命」を奪い合う行為で、互いに、いったい何を手に入れたのでしょうか。誰が幸せになったのでしょうか。

一方、地震、津波、豪雨などの災害の際に、自らの生活を二の次にして、災害地へ出向き、全力でボランティアに励む人々が大勢おられます。皆さん、この方々の姿を見て、どのような気持ちになりますか？

「素粒子」のみ存在した宇宙が、約138億年前の“ビッグバン”を経て「原子」を生み、「分子」が育まれ、やがて「高分子」ができ、人類のような「高等生物」までも生み出した…このダイナミックな進化が証明するように、この世の流れ、言い換えれば、「宇宙の意志」、「宇宙全体の法則」というものは、善き方向、正しい方向、進化発展の方向へ進もうとするものなのです。この「宇宙の意志」、「宇宙全体の法則」に逆流する状況に遭遇したとき、人には不快で不幸せな気持ちが沸くよう創られているのです。人は「笑顔」、「幸せな姿」、「前向きなことば」に快適な気持ちを抱くように創られているのです。他の人の幸せを願い、それがかなったとき、自らも幸せな気持ちになる…「思いやり」、「利他の心」を互いに持ち合い、力を合わせ

幸福な社会を形成するよう創造されている、そうでなければ、人類は既に滅亡していたことでしょう。表現を変えれば、滅亡しないよう、そのようにプログラムされているのです。

「世界三大聖人」と評される、儒教の開祖「孔子」、仏教の「お釈迦さん」、基督教の「イエス・キリスト」は、人類にとって最も大切であることについて、孔子は「恕」の心、いわゆる「思いやり」を、お釈迦さんは「慈悲」を、イエス・キリストは「愛」を説かれました。宗教的天才が、人類にとって最も大切であると述べたことは、皆、共通し且つ「宇宙の意志」、「宇宙全体の法則」に合致していることに気づかされます。

これらは、「人生の目的」「生きる意味」にも通じます。卒業後の進路に悩む中、考えた人もいることでしょう…「人生の目的」「生きる意味」とは、いったい何なのか。

私は、「人生の目的」「生きる意味」とは、「この世に、ご両親から、地球上に約870万種もの『生命』が存在していると言われる中、奇跡的にも『人』としていただけた『命』に深く感謝しながら、自らの『魂』を磨き、『心』を高め、獲得した力で、たとえささやかであっても、世のため人のために貢献するよう努めていくこと」だと固く信じています。

「世のため人のために貢献する」…実は、これこそが、私たち自身の最大の幸せ、「幸福感」につながり、「人」は社会的存在として「人格」を有した「人間」となることができるのです。

私たちは、自らの存在、発言、行いが、他の人の人生に役立ち、その人の幸せにつながったと実感できたとき、最大の「幸福感」が得られるよう創られているのです。他の人からの、「ありがとう」のたった一言で、とても幸せな気持ちになるよう創られているのです。

そして、戦場で、人の「命」を奪い合う行動を起こす時ではなく、災害地のボランティアに奔走する大勢の人のように、「困っている誰かのために！」と行動するときこそ、エネルギーが満ち溢れるよう創造されているのです。

皆さん、本校のスクールミッションを思い出してください。本校の存在意義、その使命は、「Respect：尊敬、Integration：融和、そして、Contribution：貢献」であります…言語や文化の異なる者が相互啓発により、共に生きる心を備え、地球規模での多文化共生社会を実現できる人材の育成なのです。校歌にも刻まれています…「拓け未来、我らの時代、ともに世界に羽ばたこう」「輝け命、友情の花 ともに世界に咲かせよう」「We come together to create a new age：力を合わせて新しい時代を創る」…まさに、地球規模で世界平和にも直結するものなのです。

世界の国・地域の関係の糸が、複雑に絡み合う現代にあって、この崇高なミッションを掲げる本校で、6年間学ばれた皆さんの“心の庭”には、人類

が求める、数多くの大切な種が蒔（ま）かれています。これからしっかり育み育て、宗教や文化、民族などの違いで争うのではなく、互いを敬い、違いを認め調和し、力を合わせて新しい時代を創る、人類の発展に貢献していくリーダーとしての道を歩み続けてください。

芦国のミッションは、今日からは、皆さん一人一人の「人生の使命」、「ライフミッション」となるのです。

たった一人の意識、そのたった一人のわずかな一歩の取り組みが積み上がり、周囲の人へ伝わり広がり偉大な力となり、必ずや地球上から、「宇宙の意志」、「宇宙全体の法則」に逆流する、人類で最も愚かな行為、国家権力による「命」の奪い合い、戦争・紛争が、延（ひ）いては、核の抑止力が不可欠との考えの下、軍事力に勝る国がイニシアティブを取り続ける今の世界を変える時が必ず訪れるのです。唯一の被爆国であり、私自身も長崎県の被爆者2世でもあり、昨年、「ノーベル平和賞」を受賞した「日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）」をもつ我が国の役割は、あまりに重要であると強く思っています。

1968年のアポロ8号が月に向かう軌道から、人間の手によって初めて撮影された、あのあまりに美しい星、1990年、「ボイジャー1号」が地球から60億キロ離れた場所から撮影した「ペイル・ブルー・ドット」・・・淡い青色の点・・・私たちは、この「地球」という、「命あふれる夢の星」に住む「地球人」なのです。他の星の知的生命体が、この美しい星を見て、誰が、「今でも人が殺し合いを続けている星」と想像するのでしょうか。

2度にわたり宇宙を旅した毛利 衛（もうりまもる）さんは、宇宙から地球を眺め、「国境線は見えません」という言葉を残されました。この意味を、今こそ深く理解し、行動を選択しなければならないときなのではないでしょうか。

私は、皆さんの大いなる可能性を信じ期待しています。国内外さまざまな分野での活躍が楽しみでなりません。今日まで、芦国で蓄積された巨大なエネルギー、「芦国スピリット」をビッグバンさせ、「おもいやり」「慈悲」「愛」「利他の心」で、深く尊い、人類の「真の幸せ」実現に大きく貢献してください。

物事の真理を見つめ、自分一人だけではなく、皆が幸せになる方向へ努力したならば、物事は必ず成就します。なぜなら、それが「宇宙の意志」、「宇宙全体の法則」であるからです。私たちは皆、この法則の中で生きる宇宙の一員なのです。

保護者の皆様方、本日は、誠におめでとうございます。大切なお子様は、世界屈指の先進国、日本国家が認める「成人」年齢、18歳となられ、本日、名門、兵庫県立芦屋国際中等教育学校を卒業されます。

ここでの6年間は、成長・変化の激しい多感な時期であり、お子様の健やかな成長を願って支えてこられた皆様には、さぞや、心配・ご苦勞も多かったことだと思います…立派な子どもさんを育てられましたね。斜（しゃ）に構えず素直で心優しく笑顔の輝く、誰からも愛される人柄の持ち主ばかりで、私は大好きです。将来、保護者、ご家族の皆様が歳を重ねる中、優しくしっかりと寄り添ってくれることでしょう。うらやましい限りです。

職員一同、心よりお慶び申し上げますとともに、今日まで、至らぬ点多い中、本校にお寄せいただきました深いご理解と多大なるご支援・ご協力に改めて感謝申し上げます。

また、ご多用の中、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様には、重ねてお礼を申し上げますとともに、今後とも、本校の教育にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

さあ、卒業生の皆さん、いよいよ出発の時です。

それぞれの道で、それぞれの“持ち前”で胸を張り、正々堂々と、正面突破で進み、唯一無二「自分ブランド」を確立してください。

そして、この世に生を受けた直後から、“エンジェルスマイル”で周囲の人を幸せにしてこられたように、国境も人種をも越える、コミュニケーションの第一歩、素敵なお“笑顔”と、何事をも楽しむ力“楽力”で周囲の空気を明るくする存在となってください。

希望に満ちた出発の日にあたり、この学び舎を巣立ちゆく卒業生の皆さんの、前途に幸多からんことを心から祈り念じ、式辞といたします。

令和7年、昭和100年、戦後80年、阪神・淡路大震災から30年
大きな節目の年、2月28日

兵庫県立芦屋国際中等教育学校 校長 川崎 芳徳